

教科名		生活	教科書調査報告
発行者名		東京書籍	大日本図書
調査の観点			
A 内容について	(1)基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに約束事が分かりやすく表示され、学習を進める上で身に付ける生活上必要な習慣や技能を例示している。 ・観察カードの参考例が数多く表示されており、時季ごとに書かせたい内容の変化が見て分かりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の目線で躍動感のある写真(季節、昆虫など)が随所に示されており、学習のイメージがもちやすい。 ・自分の気持ちをマークで示すなど、視覚的な効果を随所で取り入れ、ユニバーサルデザインの考え方に基づく工夫がされている。
	(2)課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・小単元で主に育成を目指す資質・能力を、児童の思いや願い、教師の発問例となる「めあて」に加え、評価規準を示すマークで明示し、指導と評価の一体化が図れるように配置されている。 ・吹き出しやイラスト、写真、約束等により、学習活動や思考の流れに沿った児童の学習の姿を具体的に例示している。 ・他教科で身に付けた資質・能力を生かす場面や、タブレット端末を使用したまとめや発表が意識されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・吹き出しによる補助発問が随所に配置されており、児童の思考を促す工夫がある。 ・「匂い」、「音」、「触って」など、視点を明確化したカードを使ったビンゴカードでの観察や、学校までの道カードなど、まとめの仕方の工夫は児童のものの見方の広がりにつながる。
	(3)資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「いきものずかん」や「まちのあんぜん」など、600点を超えるデジタルコンテンツを写真や音声で収録し、児童の気付きや「もっと知りたい」といった主体性を促す工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭に、気付きの質を高めるための「ためす」「みつける」「たとえる」「くらべる」「みとおす」「くふうする」などの多様な学習活動の工夫が紹介されている。
	(4)持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な物で遊びを考え作ったり、ユニバーサルデザインの考え方に基づく遊具を紹介したりし、自分たちもできることが考えられるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の収穫後の調理についての紹介や、地域文化を調べる単元など、学びの関心を持続させようという工夫がされている。 ・SDGsの視点から、「自分たちでできることは何か」についての取組例が示されている。
B 使用上の便宜について	(1)児童が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストや写真が豊富で、児童の興味を引く。他教科との関連が具体的に明示されており、過去の学習を思い出して生かすことができる。 ・吹き出しが多く、注目すべきポイントが分かりやすく示されていることで学習活動の流れがイメージしやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の最初に大きな写真と同時に問いも示され、児童の関心を引くように工夫されている。 ・絵の一つ一つが大きく、情報量が適切なので、学習活動で何をするのかを捉えやすい。
	(2)多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・公園や校庭で「〇〇(季節)をさがそう」のページが設定されており、身の回りで実際に探することができる工夫がされている。 ・紙面上に登場するタブレット端末が本市の小学校に配備された端末と同一機種であり親和性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙面に登場する生活様式や題材が、多摩市と同等の地域環境となっている。 ・紙面上に積極的に登場するタブレット端末が本市の小学校に配備された端末と同一機種であり親和性がある。

教科名		生活	教科書調査報告
発行者名		学校図書	教育出版
調査の観点			
A 内容について	(1) 基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元末に「もっと〇〇」のページを配置し、単元が終わった後も、学んだことを生かして活動できる工夫がされている。 ・観察カードの書き方から明示し、着目すべき写真や絵の情報量が適切で、児童が見通しをもって学習活動を行いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入部分において、「わくわくすいっち」というページを設けて、自分自身の経験を重ねて考えさせる工夫をしている。また、ヒントはキーワードや活動の方法を選択肢として示すことで、児童が考えをもちやすくしている。 ・単元の中で、見付けたり調べたり分かったことを記したりすることができる。学びの振り返りができるような工夫がされている。
	(2) 課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・どうすると虫が喜ぶのかを生態を基に考えさせ、必然的に虫の飼い方やエサについて考えさせる構成の工夫をしている。 ・「ものしりのうと」のコーナーは、みんなで遊ぶ内容や単元に関する風や影を使った遊び方などを示して、作り方やものの見方、新しい気付きなどを引き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元末に「なにをかんじたかな」という項目設定があり、「はじめてわかったこと」「もっと知りたいこと」など、気付きを振り返り、疑問から発展へとつなぐ工夫がされている。 ・「ひんとコーナー」を示すことで、観察の視点を広げ、比較や関連付けといった考え方の基礎を育てる工夫がされている。
	(3) 資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・手の洗い方や「いかのおすし」、虫の声や外来生物、おもちゃの作り方など、動画や写真が見られるよう二次元コードが示されている。 ・「まなびかたずかん」で、多様な発表の仕方や、デジタル機器の使い方が例示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末の「学びのポケット」は、他教科とのつながりをもたせたり、資料として活用することができる。 ・随所にタブレット端末やパソコンを使って学習活動を行っている写真やイラストが掲載されており、デジタル機器の活用例が捉えやすくなっている。
	(4) 持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物の生長過程が写真と共に丁寧に解説されているため、生命が続いていくことをイメージできる。 ・工作は、ペットボトルのようにリユースする素材を意図的に掲載し、資源の有限性を意識させている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ページ上端にある学習活動に関する「きづく」「かんがえる」「つたえる」「じしんをもつ」「じぶんでできる」「ちょうせんする」の表示が、児童がめあてをつかむ助けとなる。 ・学びにすすんで参加できるように、「わくわくスイッチ」のページを設定するなど工夫がされている。
B 使用上の便宜について	(1) 児童が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・相手と話したり、自分の考えを相手に伝えたりする場面が設定されており、その絵や写真を基に、児童が主体的に活動していくことができるように工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「はっけんロード」から「はてな」へのつながりは、自らが活動を組み立てるきっかけとなる。 ・児童にとって見覚えのあるキャラクターを活用することで、教科書を見るのが楽しめ、関心を引く。
	(2) 多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・教材そのものや活動自体をクローズアップして提示することで、地域環境の実態に即した活動に対応できるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「わたしのまちの自まん」「わたしのまちのくふう」のページを設定することで、自分の住んでいるまちに関心が向くように工夫されている。

教科名		生活	教科書調査報告
発行者名		光村図書出版	新興出版社啓林館
調査の観点			
A 内容について	(1) 基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「どうして?」「こんなこともあるね」などが例で挙げられていて、児童が考えをもつきっかけになる。 ・「みつけた」「くらべた」「きづいた」が、単元ごとに示されているので、ものの見方や思考過程を学ぶことができる。 ・「なつをみつけよう」など、単元最初の掲載写真が大きくダイナミックで、事象へのイメージをつかみやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「やってみた」「何やろう」「どう伝える」の学習の流れがあり、児童が見通しをもって活動できる。 ・「学びのヒント」により、児童自身が、どう学ぶかを捉えやすい。
	(2) 課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での生活、季節、友達との関わり、自分の家や学校のきまりなど、野菜や昆虫に接する児童の様子が見開きや各単元の随所に多くの絵と言葉で表現されている。 ・学びの振り返りを吹き出しや写真を基に行うよう工夫されており、児童が自分の考えをもちやすくなる工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入のページは、児童の知りたい調べたいという気持ちや様々な疑問が次の学びにつながるよう工夫されている。 ・単元末の振り返りの場面において、「ぐんぐん」のページにある「ひろがるきもち」があることで、単元で学んだことを通して、更に学びたいことや分かったことを確認できるよう工夫されている。 ・1年生から付箋での分類が取り入れられ、課題解決に必要な情報整理や判断力を育てようとする配慮がある。
	(3) 資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の流れに特化した資料を二次元コードで本編に示している。 ・「ひろがるせいかつじてん」で単元に即した多様な資料や情報機器の利活用、安全・防災、インタビューの仕方などの汎用的な資料が提示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容のポイントを適切に書き込めるようになっている。 ・定点観測的な資料を意図的に掲載しており、比較ができる資料作りがされている。 ・「まなびウェブ」のように二次元コードで資料を引き出すことができ、巻末にも資料がまとまっている。
	(4) 持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元末に「たのしいまい日につなげよう」という項目を特設し、単元を通して感じたこと、考えたこと、これから取り組みたいことを考えられるよう構成されている。 ・工作は、身の回りのリユースする素材を意図的に掲載し、資源の有限性を意識させている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工作におけるリユース素材やバリアフリー、電気の消灯、SDGsの目標などについて記載されており、自分がこれからの生活において家や学校でできることを考えられるようになっている。 ・一つ一つの題材に関する説明を最小限にとどめ、児童が自発的、主体的に学びを深めていくための配慮が見られる。
B 使用上の便宜について	(1) 児童が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストが多く使われ、学びを振り返るストーリー仕立てになっている。 ・「せいかつじてん」を児童が主体的に学習を進める際に様々な形で活用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や写真の色合いが薄く、視覚的な刺激が少ない。また、各ページの単元名や本文などを掲載する位置が固定化されており、インクルーシブ教育の視点に立って、学習内容を捉えさせる配慮がされている。 ・「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」と段階を踏んでページが進んでおり、児童が主体的な学習を進める際に、過程をつかみやすい。
	(2) 多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から使う電車やバスの乗り方が提示されるなど、自分の地域に合った部分を取り出して考えさせることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遠景はイラストで掲載され、登場人物や場所が統一されていて比較しやすい。自分の地域との相似点に着目させて実感させるようになっている。